

平成 25 年 8 月 5 日

各 位

会 社 名 株式会社エイアンドティー
代表者の役職氏名 代表取締役社長 礒 村 健 二
(コード番号：6722)
問 い 合 わ せ 先 取締役経営管理本部長 吉 村 佳 典
電 話 番 号 0 4 5 - 4 4 0 - 5 8 1 0 (代)

業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ

当社は平成 25 年 8 月 5 日開催の取締役会において、平成 25 年 2 月 8 日に発表いたしました平成 25 年 12 月期の第 2 四半期累計期間及び通期の業績予想を修正いたしましたのでお知らせいたします。また、同取締役会において、平成 25 年 12 月 31 日を基準日とする期末配当予想について、下記のとおり修正することを決議いたしましたので、あわせてお知らせいたします。

記

1. 平成 25 年 12 月期第 2 四半期累計期間業績予想の修正 (平成 25 年 1 月 1 日～平成 25 年 6 月 30 日)
(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四 半 期 純 利 益	1 株 当 た り 四 半 期 純 利 益
前 回 予 想 (A)	4,400	400	380	240	38 円 36 銭
今 回 修 正 (B)	4,378	296	282	201	32 円 15 銭
増 減 額 (B-A)	△ 21	△ 103	△ 97	△ 38	—
増 減 率 (%)	△ 0.5%	△ 25.8%	△ 25.6%	△ 16.2%	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 平成 24 年 12 月期第 2 四半期	4,187	414	404	262	42 円 03 銭

2. 第 2 四半期累計期間業績予想修正の理由

当第 2 四半期累計期間の業績予想につきましては、売上高は期初予想より約 21 百万円減少する見込みであります。主な減収要因は、検体検査装置の OEM 販売の受注及び臨床検査試薬の直販が低調に推移し、約 56 百万円減少する見込みであります。一方、営業・システムエンジニアの増強等により臨床検査情報システムの販売が堅調に推移し、他社製品を含めた総合提案による大型案件の増加等により、約 34 百万円増加する見込みであります。

利益面におきましては、一部の消耗品部材の在庫評価減等に加え、主に臨床検査情報システム、検体検査自動化システムの大型案件において他社との競争激化や値引き等により採算性が低下し、売上原価が増加 (約 152 百万円) する見込みであります。一方、販売費及び一般管理費は主に開発に一定の目処がついた業務委託費の削減等に努めた (約 70 百万円) 結果、営業利益は約 103 百万円、経常利益は約 97 百万円、四半期純利益は約 38 百万円減少する見込みであります。

3. 平成 25 年 12 月期通期業績予想の修正（平成 25 年 1 月 1 日～平成 25 年 12 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回予想 (A)	9,200	830	800	490	78 円 31 銭
今回修正 (B)	9,000	630	600	420	67 円 13 銭
増減額 (B-A)	△ 200	△ 200	△ 200	△ 70	—
増減率 (%)	△ 2.2%	△ 24.1%	△ 25.0%	△ 14.3%	—
(ご参考) 前期実績 平成 24 年 12 月期	8,663	757	738	484	77 円 51 銭

4. 通期業績予想修正の理由

通期の業績予想につきましては、売上高は期初予想より約 200 百万円減少する見込みであります。主な減収要因は、検体検査装置の OEM 販売及び臨床検査試薬の直販が上期同様、低調に推移し、約 230 百万円減少する見込みであります。また、今期、臨床検査情報システムの販売は受注・売上時期が年度末に集中する見込みであります。そのため、売上時期の平準化、システムエンジニアの工数配賦の最適化が困難であること等から低調に推移し、約 170 百万円減少する見込みであります。一方、検体検査自動化システムは新たな OEM 販売の開始に加え、新バージョン CLINILOG V4 の新規案件が増加し、他社製品を含めた総合提案による大型案件の増加等もあわせ、約 200 百万円増加する見込みであります。

利益面におきましては、上期からの各製品における他社との競争激化や値引き等による採算性低下の影響が見込まれ、売上原価が約 190 百万円増加する見込みであります。一方、販売費及び一般管理費は、必要な費用について集中と選択を強化することで経費の抑制に努め、約 190 百万円減少する見込みであります。その結果、営業利益は 200 百万円、経常利益は 200 百万円、当期純利益は 70 百万円減少する見込みであります。

5. 配当予想の修正

	年間配当金		
	第 2 四半期末	期末	合計
前回予想	—	12 円 00 銭	12 円 00 銭
今回修正予想	—	16 円 00 銭 (普通配当 12 円 00 銭) (記念配当 4 円 00 銭)	16 円 00 銭 (普通配当 12 円 00 銭) (記念配当 4 円 00 銭)
当期実績	0 円 00 銭		
前期実績	0 円 00 銭	12 円 00 銭	12 円 00 銭

6. 配当予想の修正理由

当社は、平成 25 年 5 月 25 日に創業 35 周年を迎えました。また、平成 25 年 7 月 30 日には上場 10 周年を迎えることができました。これもひとえに長年にわたってご愛顧くださったお客様や株主の皆様、関係各位のご支援、ご指導の賜物であり、心から感謝申し上げます。

当社を取り巻く経営環境・見通しは厳しい状況ではありますが、株主各位のご支援に感謝の意を表するとともに、今後ともご支援を賜りたく、普通配当 12 円に加え、一株当たり 4 円の記念配当を実施させていただくことといたしました。

なお、期末配当金につきましては、平成 26 年 3 月開催予定の第 37 回定時株主総会に付議する予定であります。

(注) 上記の予想につきましては、現時点で得られた情報に基づいて作成しており、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる場合があります。

以上